モクズガニの種苗放流と追跡調査

藤井久之，中西　一

当センターで種苗生産したモクズガニの種苗を放流し，また放流した種苗の成長・定着状況等を把握するため，追跡調査を実施したのでその結果を報告する。報告に先立ち，調査に御協力いただいた有田川漁業協同組合，清水町役場の方々に御礼申し上げる。

材料および方法

放流場所　モクズガニ種苗の放流場所は，湯川川（有田川支流，有田郡清水町湯子川地内），臼谷川（有田川支流，伊都郡花園村梁瀬地内），貴志川（紀ノ川支流，海草郡野上町松瀬地内），広川（広川本流，有田郡広川町下津木地内）および切目川（切目川本流，日高郡印南町真妻地内）の5地点である。放流場所の概略を図1に示した。

種苗の放流　放流に用いた種苗は，当センターで1990年3～7月に種苗生産した甲長約4mm（体重約0.04g）のものである。種苗の輸送はコンテナ（55×40×30cm）内に湿らせた布を敷き，1箱当たり3,000～4,000尾を収容して行った。放流状況は表1に示したとおりで，各地点へ集中放流した。

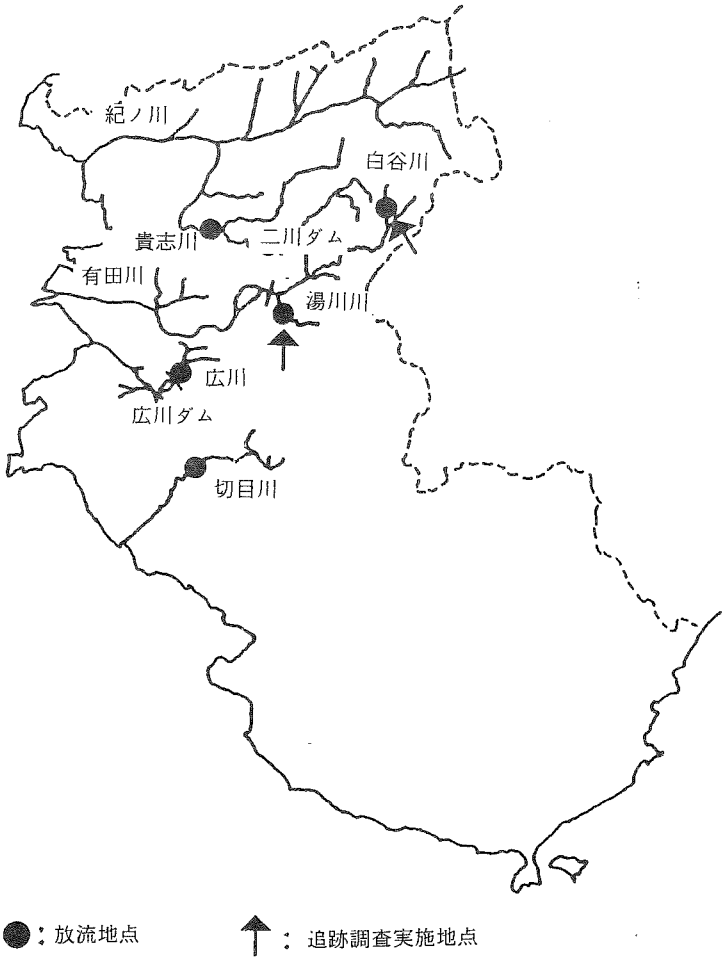

図1　種苗放流場所

表1　種苗放流状況　　単位：尾

放流河川	尾　数	年.月.日
湯川川	27,000	1990.4.23
	4,000	7. 5
臼谷川	3,000	4.23
貴志川	8,000	7. 5
広　川	20,000	7. 6
切目川	8,000	7. 6

追跡調査　調査は前年度[1]に引き続き湯川川と臼谷川において，放流地点を中心に目視で稚ガニ（外骨格・生体）を採補することにより，放流後10月まで約1ケ月間隔で行った。期間中の水温は，湯川川では12～24℃，白谷川では11～23℃であった。

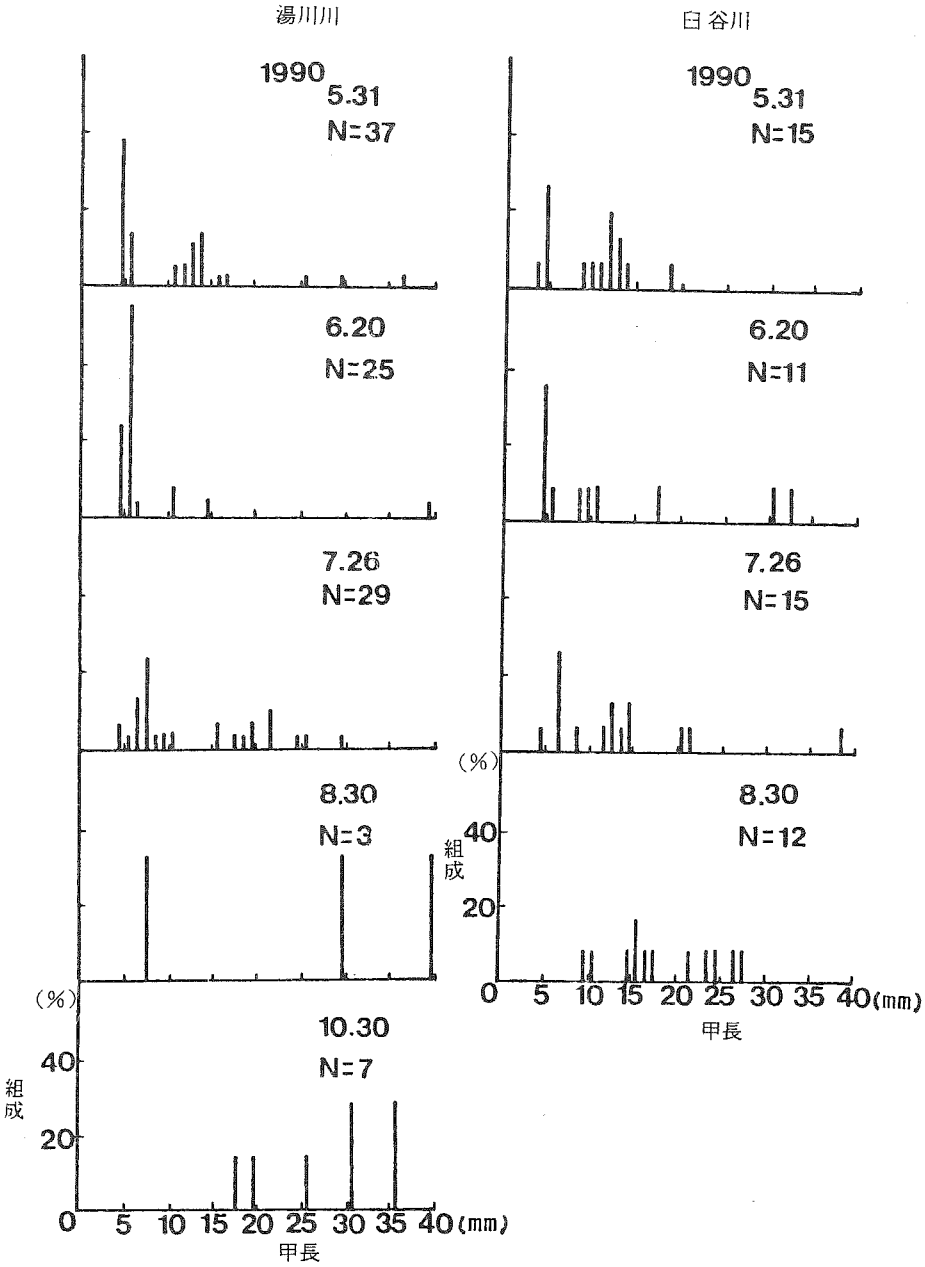

図2　追跡調査により採補されたモクズガニの甲長組成

結果および考察

追跡調査により採捕されたモクズガニの甲長組成の変化を図2に示した。

湯川川についてみると，以下のとおりである。5月31日は37尾採捕され，甲長範囲は4～37㎜（うち4㎜が38％で最多）であった。6月20日は25尾（4～40㎜，うち5㎜が56％で最多），7月26日は29尾（4～30㎜，うち7㎜が24％で最多）であり，8月30日は3尾（7～41㎜），10月30日は7尾（17～35㎜）であつた。同様に，臼谷川では5月31日は15尾（3～19㎜，うち4㎜が27％で最多），6月20日は11尾（4～33㎜，うち4㎜が36％で最多），7月26日は15尾（4～39㎜，うち7㎜が27％で最多）であり，8月30日は12尾（10～26㎜）であつた。7月は両川とも7㎜のものが最も多く，放流時に4㎜であったものが約3ケ月後には7㎜に成長した。10月は甲長の小さいものがみられないが，これは時間の経過とともに稚ガニが放流地点から上流域へ分散するもの，また，今年度放流のものと比べ明らかに大きいものもみられるが，これらは以前に放流したものと考えられる。

調査河川の有田川では，昭和42年に二川ダムが建設されてからはモクズガニ資源はダム上流で壊滅状態になっている。[2] 種苗放流地点は二川ダム上流であり，状況からみて今回採補されたモクズガニは放流されたもので，放流後2～3ケ月は放流地点付近に留まり，その後は生息域を拡大するものと思われる。

文　　献

1）中西　一，堀江康浩：モクズガニの種苗放流と追跡調査．平成元年度和歌山県内水面漁業センター事業報告，40－47（1991）.

2）中西　一，堀江康浩：モクズガニの種苗放流と追跡調査．昭和61年度和歌山県内水面漁業センター事業報告，55－60（1988）.